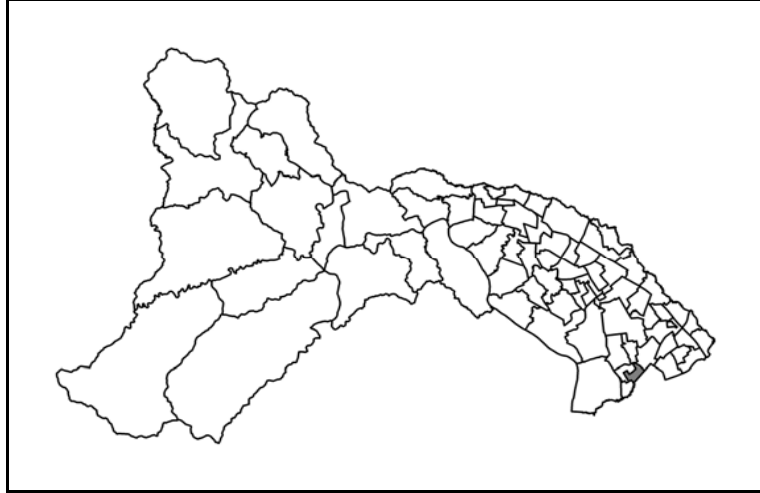


○地区を構成する町丁

【南区】新磯野1丁目、相模台3丁目・4丁目、相武台3丁目、相武台団地1丁目・2丁目

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

相模台(自治会法人みよし), 相武台(新磯野第1, 新磯野第2, 新磯野南, 相武台団地第2, 相武台団地第5, 相武台団地第1)

○地区概況

台地(上段)にあるが、中央部付近の谷を中心に凹凸がある。地区の中央に相武台団地があり、その中心を県道507号相武台相模原線が通っている。その他は住宅地が多いが、西部には農地や駐車場のオープンスペースが多い。

○建物数・人口

建物		人口	
区分		区分	
木造(昭和55年以前)	402 棟	0~4歳	286 人
木造(昭和56年以降)	786 棟	5~64歳	5,969 人
非木造(昭和55年以前)	98 棟	65歳以上	2,149 人
非木造(昭和56年以降)	257 棟	合計	8,404 人
合計	1,543 棟		

○所見

- ・相武台小学校の東側は谷地形であり、地盤が局所的に低い。
- ・東部から避難する経路には、県道507号相武台相模原線の横断と坂道がある。
- ・富士山の大規模噴火時には2~30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	
警察署	
消防署	
消防団詰所	
病院等	小林整形外科
主な災害時要援護者施設	新日本ケアセンター 相武台, コンチェラート相武台, グループホームたんぼぼ相武台
幼稚園、保育園	相武台中央幼稚園, 相武台新日本保育園
学校、大学	相武台小学校
避難所 ※洪水時避難所兼用	相武台小学校
洪水時避難所	
広域避難場所	
防災備蓄倉庫 ※広域避難場所対応	相武台小学校
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

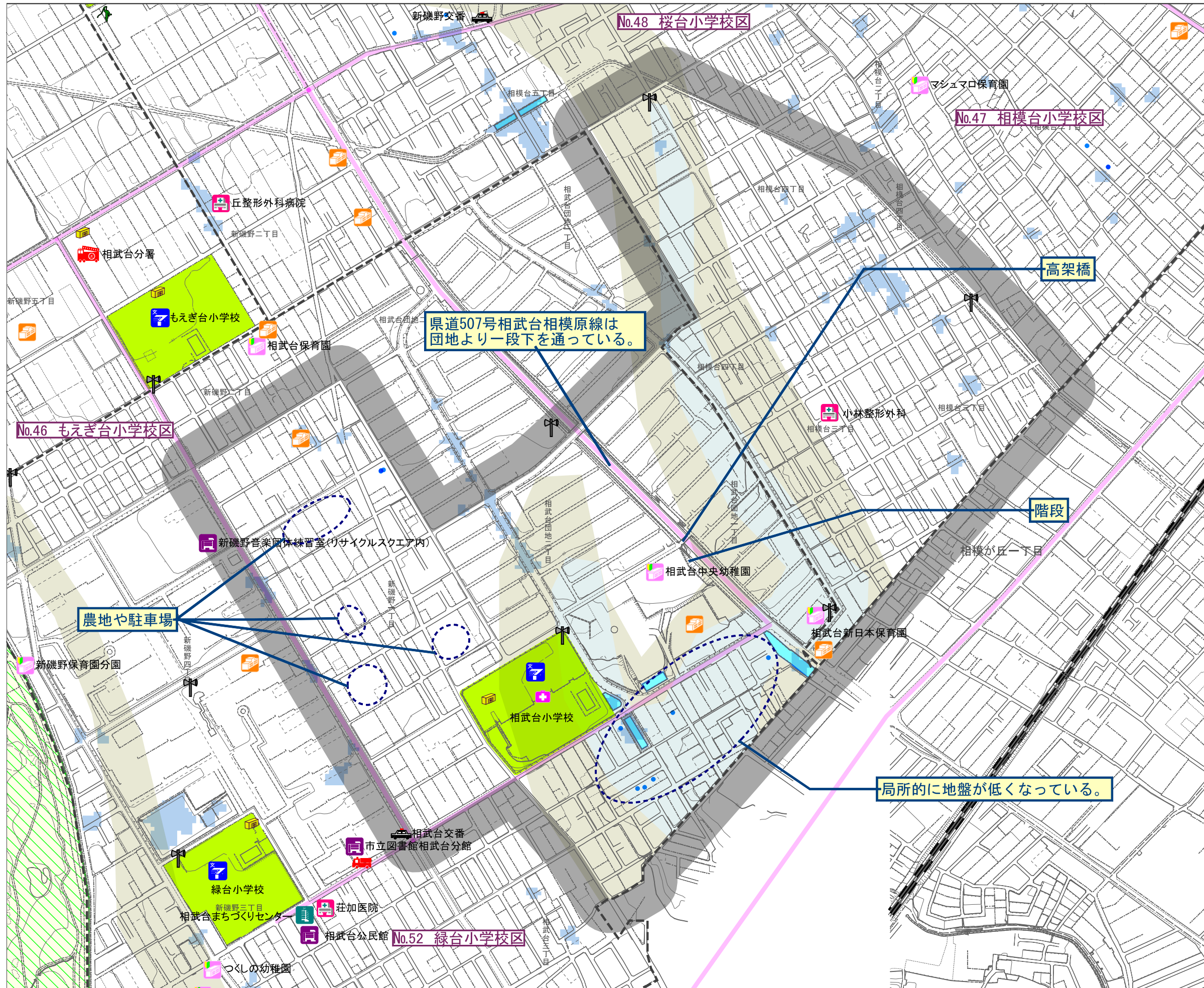
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	74 棟	4.8 %	3 棟	0.2 %	26 棟	1.7 %
建物焼失	13 棟	0.9 %	1 棟	0.0 %	0 棟	0.0 %
死者	5 人	0.1 %	0 人	0.0 %	2 人	0.0 %
閉込者	36 人	0.4 %	3 人	0.0 %	14 人	0.2 %
重傷者	6 人	0.1 %	0 人	0.0 %	2 人	0.0 %
軽傷者	38 人	0.5 %	8 人	0.1 %	22 人	0.3 %
避難所避難者(当日)	292 人	3.5 %	32 人	0.4 %	118 人	1.4 %
避難所避難者(1週間後)	710 人	8.5 %	211 人	2.5 %	466 人	5.5 %

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	■■■■
土砂災害	■■■■
地震による地盤災害	■■■■
地震による建物被害、火災	■■■■

○近年の主な災害履歴

平成 3年 9月19日 床下浸水6戸
平成12年 9月16日 床下浸水1戸
平成20年 8月28日 床下浸水2戸



防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設
	幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

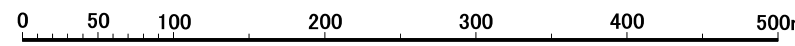
	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)



1:5000

